

【9月の気象】

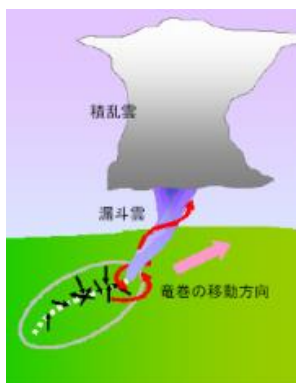
- ▷ 9月は、8月に続いて気温が高い時期です。農作物の管理や熱中症に注意が必要です。
「気象庁ウェブサイトにおける熱中症警戒アラートのページアドレス」 ↓
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#element=heat&contents=information>
- ▷ 9月は、8月に次いで台風が多く発生し、日本へ接近する時期です。台風の平年値（1991～2020年）によると、9月の台風の発生数は5.0個、日本への接近数は3.3個、四国への接近数は1.0個です。台風情報を積極的に入手し、早めの台風対策にお役立てください。
台風情報はこちらから入手してください → <https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=typhoon>
台風に関する詳細はこちらをご覧ください → <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/typhoon/index.html>
- ▷ 夏から秋にかけての時期は、秋雨前線が形成されて日本付近に停滞し、長雨をもたらすことがあります。特に、台風の東側には暖かく湿った空気が流れ込みやすいため、ここに秋雨前線があるとその活動が活発となって大雨をもたらすことがあります。台風の進路と前線の位置には注意が必要です。
- ▷ 9月は、年間で最も多く竜巻が発生する時期です。屋外では、竜巻などの激しい突風はもとより、その前段階となる積乱雲の接近や発達、これに伴う急な強い雨や雷の発生に注意が必要です。
雨雲の動き・雷活動度・竜巻発生確度 → <https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>
竜巻注意情報の発表状況はこちら ↓
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=information&element=tornado>

【気象用語】「竜巻などの激しい突風」とは

発達した積乱雲の周辺では、急な強い雨や雷をはじめ、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった激しい突風をもたらす現象が発生することがあります。これらの突風は、上空への寒気の流入や、その下に暖かく湿った空気が流入することで、大気の状態が不安定となったときに発生しやすくなります。特に竜巻は、温帯低気圧や前線、台風の近傍でも多く発生します。

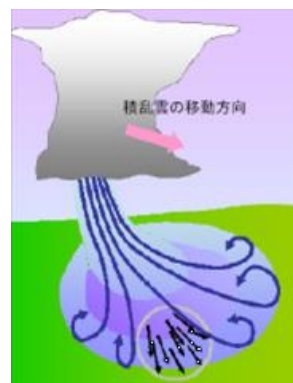
これらの突風は、局所的、突発的に発生するため、予測が難しい現象です。竜巻が発生する可能性に応じて、気象情報や雷注意報、上記記載の竜巻注意情報などが発表されます。もし、自分の身の回りで、雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲や飛散物が筒状に舞い上がるのを見たり、ゴーという音が聞こえたり、気圧の変化で耳に異常を感じたら、屋外では直ちに頑丈な建物へ避難する、屋内では窓やカーテンを閉めて窓際から離れるなど、すぐに身を守るための行動が必要です。

<主な突風の種類>



竜巻

積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗状または柱状の雲を伴う。被害域は、幅数十～数百メートルで、長さ数キロメートルの範囲に集中するが、数十キロメートルに達したこともある。



ダウンバースト

積乱雲から吹き降ろす下降気流が地表に衝突して水平に吹き出す激しい空気の流れである。吹き出しの広がりには数百メートルから十キロメートル程度で、被害域は円形あるいは楕円形など面的に広がる特徴がある。



ガストフロント

積乱雲の下で形成された冷たい(重い)空気の塊が、その重みにより温かい(軽い)空気の側に流れ出すことによって発生する。水平の広がり竜巻やダウンバーストより大きく、数十キロメートル以上に達することもある。